

論文査読における照会文，返送文の書き方について

論文査読に当たっての具体的な留意点，論文の具備条件，評価・判定基準などについては，電気学会のサイトにある「電気学会投稿論文等の査読結果報告要領」(<http://www2.iee.or.jp/ver2/honbu/28-magazine/manual/manual-reviewinfo.pdf>)および産業応用部門論文委員会のサイト（「査読者の皆様へのページ」：<http://www2.iee.or.jp/~ias/d-ron/sadoku>）に分かりやすく記載されておりますが，査読後の照会文あるいは返送文になるとどのように書いたらよいか悩む方も多いと思います。そのため，照会文，返送文のサンプルが以前作られました。この度改訂を行いましたので参考にして下さい。

サンプル作成に当たって，幾つかの照会文・返送文を調べましたが，論文の完成度が低い場合，具備条件が不十分な場合，内容が難解である場合，など論文の内容によって異なり，また，論文査読プロセスのどの段階で書かれたかによっても異なっており，詳細に書かれたもの，簡潔に書かれたもの色々ありました。共通して言える事は，照会事項，返送理由が，

- 動かし難い事実，根拠に基づいて的確，簡潔に書かれていること
- 再度の照会などで新たな照会事項が追加されていないこと
- 過度の指導的照会になっていないこと

などがポイントのようです。

また，照会文・返送文については論文委員会でチェックの上，そのまま著者に送付出来るように考えておりますのでご配慮下さい。

なお，以下のサンプルは「照会文，返送文の書き方」用として，架空の論文を想定してもっともらしく作成したものであり，表題と内容，事実は合致しておりません。

1. 査読者用の照会文のサンプル

照会文については，以下のサンプルのようなスタイルのものが多くあります。

1.1 A 判定の論文の場合

査読の場合には，「論文委員会のコメント」欄や「著者への照会事項等」の欄に論文として優れている内容等を必ず記載して下さい。照会後の判定の場合には，「査読者の指摘事項に対して適切な修正がなされており，〇〇〇の点に関して論文としての価値が明確になった。」等もできるだけ記載して下さい。

1.2 B 判定の論文の場合

査読の場合には，「論文委員会のコメント」欄や「著者への照会事項等」の欄に論文として優れている内容等を必ず記載して下さい。照会後の判定の場合には，「査読者の指摘事項に対して適切な修正がなされており，〇〇〇の点に関して論文としての価値が明確になった。」等もできるだけ記載して下さい。

1.3 C 判定（照会后判定）の論文の場合

表題『カオス理論を用いた新しい系統安定性の評価法』

<全体について>

本論文は，電力系統に多用されている電圧制御装置の動作特性を測定し，その結果をカオス理論に

より分析することにより、系統安定性の新しい評価指標を求めるもので、P-V 曲線をもとに決定論的カオスかどうかを一義的に求めるところがポイントになっております。これが実現すれば実用的価値は大きいと考えます。しかし、全体としてその内容が分かりにくいようです。以下、その具体事項を記します。

<部分について>

必須修正項目：p1 上 11 行 理論式の展開と実験での検証が不明確です。

.....

推奨修正項目：p2 上図 5 縦軸のスケールをもう少し大きくしてください。

.....

エディトリアルな修正項目：p6 上 17 行 図中の英語にスペルミスがあります。

.....

1.4 D 判定（返送文）の論文の場合

返送文についても、前述の照会文と応用に詳細に書かれたものと簡潔に書かれたものとが有りますが、論文の内容に依存するところが大きいようです。簡潔に書かれたサンプル 2 例を以下に示します。

① 完成度が低い論文の場合

表題『カオス理論を用いた新しい系統安定性の評価法』

本論文は、電力系統に多用されている電圧制御装置の動作特性を測定し、カオス理論による新しい安定性評価法に関する内容で、ランダムと非ランダムとの関係を P-V 曲線をもとに一義的に求めるところがポイントになっており、これが実現すれば実用的価値は大きいと考えます。しかし、本論文にはその骨子をなす基本的な部分について、次の 2 つの不明確な部分が見られます。

- 「ランダムと非ランダムとの関係を P-V 曲線をもとに決定論的カオス理論を用いて一義的に決めることが可能である」との大前提で、測定データの整理、分析を行っています。このような基本的内容については、その理論的根拠および種々の系統状態における実証あるいはシミュレーション等での確認が必要と考えますが、双方とも不足しております。
- 系統事故時の時間的な変化を考慮した安定性評価の検討が不十分であるため、p.3 の式(14)の導出方法の妥当性判断が非常に困難であります。

上記より、論文の完成度が低く新規性、創造性、有用性が不明確であると判断されましたので D 判定（返送）とします。

② 新規性、有用性、創造性の判断が困難な論文の場合

表題『水トリー現象時における CV ケーブルの電気特性』

本論文に示されている結果は、温度変化に対する ABB 曲線とほとんど同じものであり、新しい観点から十分考えられた実験が行われたとは見受けられません。また、結果の説明に飛躍があり、考察が不十分で理解し難くなっております。したがって、新規性、創造性、有用性の判断が出来ず D 判定（返送）とします。実験結果に対して更なる検討を行い、結果の表現に推敲を重ねた上で、再投稿されることをお勧め致します。

③ 照会後に必須修正項目が残されている場合

査読者 A により指摘されていた項目の内、③の必須修正項目に対する回答が不十分であり、○○に関する疑問点が残されています。C 判定は 1 度しかつけることができないため、返送判定とさせていただきます。③の必須修正項目の回答として、客観的なデータを添付した上で、新たな論文として投稿されることを推奨いたします。

以上